

## ヒメトビウンカに対するカマバチの年次別季節別寄生率

小山健二・高山隆夫\*・三橋 淳\*\*・岸野賢一  
(農業環境技術研究所・\*群馬県農業総合試験場・\*\*林業試験場)

ウンカの有力な天敵を含むカマバチ科 Dryinidae には、日本では現在までに6種類が知られている。そのうちヒメトビウンカに寄生するカマバチとしては、クロハラカマバチ *Haplogonatopus atratus* Esaki et Hashimoto (江崎・橋本, 1932), セグロカマバチ *Echthrodelphax bicolor* Esaki et Hashimoto (江崎・鮫島, 1940), トビイロカマバチ *Haplogonatopus japonicus* Esaki et Hashimoto (江崎・橋本, 1935), アリモドキバチ *Paragonatopus fulgori* Nakagawa (中川, 1906) の4種類が報告されている。今回は、以上4種のカマバチのうち、どの種類のハチがヒメトビウンカに寄生しているかを、群馬県館林市と前橋市の2か所で、1983年12月より1986年6月まで調査した結果を報告する。本文に入るに先だちカマバチの同定をしていただいた元農業環境技術研究所昆虫管理科技官の福原植男氏に深くお礼申し上げる。

### 材料および方法

群馬県館林市当郷と前橋市江木町の2か所よりヒメトビウンカを採集し、採集2日目より芽出しイネを餌として径18mm, 高さ100mmの小型ガラス試験管内で個体飼育した。飼育は温度25℃, 16時間照明の長日条件下で行った。こうして飼育中にヒメトビウンカに寄生

していたカマバチの種類と寄生数を調査した。カマバチの寄生の確認はヒメトビウンカの腹部に突起が生じ、肉眼でみえるようになった時点で行った。

### 結果および考察

ヒメトビウンカに寄生していたカマバチの寄生率を第1表に示す。成虫になったカマバチの種類は、すべてクロハラカマバチで、セグロカマバチ、トビイロカマバチおよびアリモドキバチは確認出来なかった。

以上の結果、今回の2か所の採集地点では、クロハラカマバチの寄生率は、最低27%, 最高53%であったので、ヒメトビウンカの天敵としてこのハチが有力に働いていることが明らかになった。また、年次と季節による寄生率には一定の傾向はみられなかった。小山ら(1986)は、ヒメトビウンカの越冬期の寄生性天敵を調査した結果、クロハラカマバチが多数寄生しており、その寄生率は34%を示し、今回の調査と同程度の寄生率であった。クロハラカマバチの雌成虫は、宿主(ヒメトビウンカ)に産卵し寄生するばかりでなく捕食もするので、その生理・生態的特性が解明されれば、生物的防除に利用することも可能になるであろう。

### 引用文献

- 江崎悌三・橋本士郎(1932). 農林省委託浮鹿子防除予防試験報告 3: 24-32.  
江崎悌三・橋本士郎(1935). 農林省委託浮鹿子防除予防試験報告 6: 18-24.  
江崎悌三・鮫島徳造(1940). 農林省委託浮鹿子防除予防試験報告 11: 27-39.  
小山健二・高山隆夫・三橋 淳・岸野賢一(1986). 関東病虫研報 33: 168-169.  
中川久知(1906). 昆虫学雑誌 1: 163-171.

第1表 ヒメトビウンカに対するカマバチの年次別季節別寄生率

調査開始日	前橋市江木町			館林市当郷		
	調査虫数	寄生数	寄生率(%)	調査虫数	寄生数	寄生率(%)
1983.12.24	144	42	29	150	50	33
1984. 3.31	100	44	44	221	74	33
1984. 6.20	51	24	47	228	94	41
1984.12.21	100	46	46	100	30	30
1985. 4.10	—	—	—	100	53	53
1985. 6.18	100	28	28	67	23	34
1986. 4. 4	104	49	47	94	27	29
1986. 6.18	116	31	27	137	45	33

Kenji KOYAMA, Takao TAKAYAMA, Jun MITSUHASHI and Ken-ichi KISHINO : Seasonal variation in parasitism of Dryinidae to the smaller brown planthopper, *Laodelphax striatellus* Fallén.

昭和62年4月30日受領。